



みなとまち
VISION BOOK

2013-2018

港まちづくり協議会

〒455-0037 名古屋市港区名港一丁目14番23号 コーラルまるさんビル2階 D号室

TEL 052-654-8911 FAX 052-654-8912 <http://www.minato55.jp>



港まちづくり協議会

平成25年3月



はじめに

港まちづくり協議会は、平成25年4月で7年目を迎えます。これも平素より、温かいご支援とご協力をいただいている皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。

この度、港まちづくり協議会では、港まちの今後の10年を展望し、およそ5年間にわたる事業展開をイメージしたビジョンを作成しました。名づけて「み(ん)なとまちVISION BOOK」。このタイトルには、私たちが大切にしている「なごやのみ(ん)なとまち」というコンセプトを反映しています。このコンセプトを軸にしつつ、港まちがこれまでに歩んできたまちづくりの軌跡に学び、港まちの皆さんはもちろんのこと、各方面の方々からのアドバイスをいただきながら、今の時代に必要な新しい視点を加えた、近しい未来を描きました。

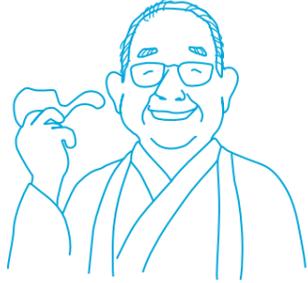
今後は、このビジョンを1つの羅針盤とし、名古屋中、そして全国に誇れる「みんなの港まち」を目指して、皆さんと進める「港まちづくり」をますます充実させたものにしていきます。



平成25年3月

港まちづくり協議会・ビジョン検討委員会 一同

ごあいさつ



港まちづくり協議会はこの6年間で着実に成長してきましたが、まだまだ努力が必要な面もございます。今後はより多くの人々と一緒に楽しく、そしてにぎやかに協働していく仕組みづくりが大切です。このビジョンでは、様々な方々の智慧を頂きながら、そんな未来の実現を目指しました。ここからは住民の皆さんの出番です。みんなの智慧と行動を集めて、新たな「港まちづくり」を進めて参りましょう。

港まちづくり協議会 会長 高羽 章

目次

| | |
|---|----|
| I. 「み(ん)なとまちVISION BOOK」の作成にあたって | |
| I.1 - 港まちづくり協議会とは | 04 |
| I.2 - ビジョン作成の意義 | 05 |
| I.3 - これまでの港まちづくりをふり返って | 06 |
| I.4 - 新たな「港まちづくり」への視点 | 10 |
| I.5 - ビジョン作成の流れ | 12 |
| II. なごやのみ(ん)なとまちの構想 み(ん)なとまちVISION | |
| II.1 - 港まちの将来像 | 14 |
| II.2 - 3つのテーマに対する9つのシナリオ | 16 |
| II.3 - ビジョンが示す期間 | 18 |
| COLUMN - 地域資源を活かした観光への視点 | 18 |
| III. 9つのシナリオ | |
| ○ : 心地よく安心な港まちで暮らす | 20 |
| シナリオ① 防災・減災まちづくりの推進 | 21 |
| シナリオ② コミュニティ活動の推進 | 22 |
| シナリオ③ 住みやすいまちづくりの推進 | 23 |
| △ : 魅力的でにぎやかな港まちに集う | 24 |
| シナリオ④ 交流を通じたにぎわいの創出 | 25 |
| シナリオ⑤ 港まちの回遊の促進 | 26 |
| シナリオ⑥ ガーデンふ頭の集客力の向上 | 27 |
| □ : みんなと港まちを創る | 28 |
| シナリオ⑦ み(ん)なとまちを元気にする情報発信 | 29 |
| シナリオ⑧ み(ん)なとまちに呼び込む新たな風 | 30 |
| シナリオ⑨ み(ん)なとまちの協働の促進 | 31 |

I. 「み(ん)なとまちVISION BOOK」の作成にあたって



I.1 港まちづくり協議会とは

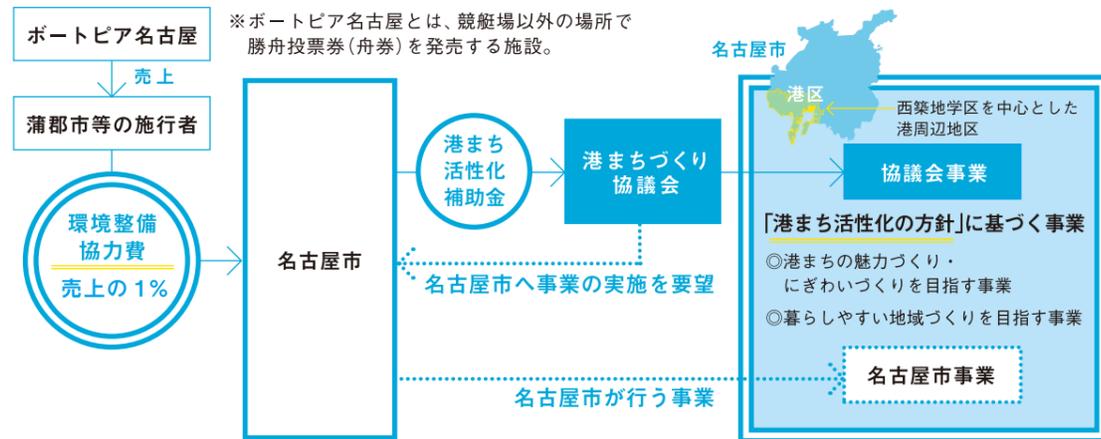
①港まちづくり協議会のはじまり

平成18年8月のポートピア名古屋の開設に伴い、競艇を施行する自治体(蒲郡市など)から「環境整備協力費」(ポートピア名古屋売上金の1%)が、名古屋市に交付されることとなりました。これを原資としたまちづくり事業を以下の「港まち活性化の方針」に基づいて推進する団体として誕生したのが、港まちづくり協議会です。

②港まち活性化の方針と港まちづくり協議会の取り組み

港まちづくり協議会の始動に先立ち名古屋市が策定したのが「港まち活性化の方針」です。そこでは、「西築地学区を中心とした港周辺地区」において、「ポートピア名古屋の開設をきっかけに市民と行政との協働による港まちなぎわいづくり・地域づくりを目指す」ため、「港まちなぎわいづくり・地域づくりを目指す事業」と「暮らしやすい地域づくりを目指す事業」の2つの事業を検討・実施することが明記されています。港まちづくり協議会では、この方針に基づき、地域の意向を取りまとめた名古屋市に事業の実施を要望するとともに、港まち活性化補助金を活用し、各種の「協議会事業」を実施しています。これらの取り組みには、常に公共事業としての妥当性が求められています。

◎「環境整備協力費」を活用するまちづくり事業



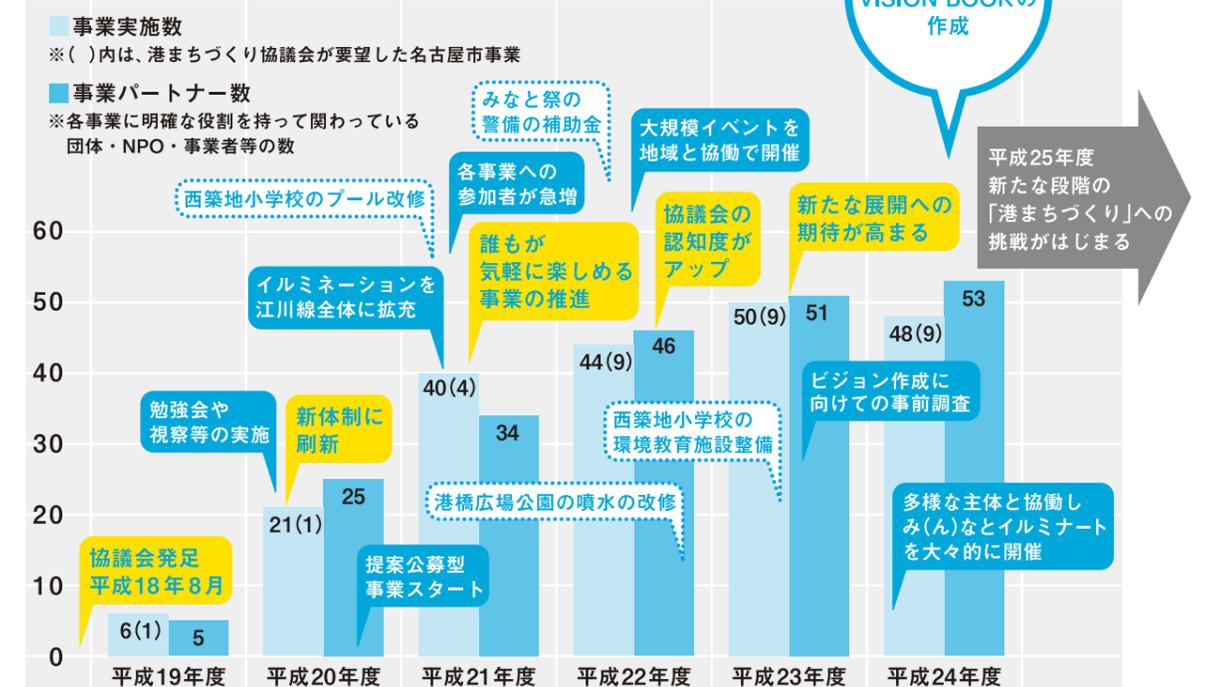
※港まちづくり協議会メンバーの構成については巻末に記載しています。

①これまでの取り組みを整理し 新たな段階の「港まちづくり」のビジョンを構築する

港まちづくり協議会では、これまでおよそ6年間にわたり数々の独自事業を展開してきました。その結果、ハードの環境整備を充実させると同時に、地域住民や団体・NPO・事業者等、事業パートナーとの協働による各種の取り組みを推進し、人づくりも含めた数多くの成果をあげてきました。

I.2 ビジョン作成の意義

◎これまでの事業展開の推移



一方、充実してきたハードや培ってきたネットワークを有効活用していくことも必要です。そのためには、人々の深い共感と信頼を軸にした協働のあり方を問い直さなければなりません。

港まちづくり協議会では、このビジョン作成を通して、これまでの取り組みを整理し、事業全体を包括するコンセプトを明確に位置づけます。そして、そこから浮かび上がる近しい未来を描いていきます。

I.3

これまでの
港まちづくりを
ふり返って

舢舨(はしけ)による荷役作業。舢舨とは、港湾内で重い貨物を運ぶための平底の船舶のこと。沖合の船と河岸をつなぐ荷役作業の主役だった。



中央ふ頭にて、盛大に開催された「みなと祭」。踊り子の背景に見える灯台、港を行き交う船々。「みなと祭」という名にふさわしい原風景。
築地口神社おひざ元の町内会の皆さん。みなと祭の記念撮影は、毎年神社の前だった。笹ちょうちんなども懐かしい。



散歩道であり、デートスポットでもあった思い出の灯台。思い浮かべると、懐かしい潮風の薫りが漂うのだとか。

①「名古屋の港まち」は「みんなの港まち」だった

名古屋はモノづくり産業の都市として知られていますが、名古屋港はその発展を支えてきた物流の拠点です。そして、その名古屋港の活力を支えてきた港まちが、現在の西築地学区を中心とした港周辺地区です。

昭和40年までの名古屋港には大型の貨物船が頻繁に来港し、運搬業者の舢舨(はしけ)や貨物列車、トラック等が活発に行き交ったため、港まちには様々な国の船員や荷役労働者が集まり、大変なにぎわいでした。異国情緒の漂う港まちからは、名古屋の中心部へとつながる路面電車も運行され、多くの人々が頻繁に利用していました。そこには、活気ある「名古屋の港まち」の原風景があったといえるでしょう。

名古屋の産業を支えた多くの人々が、港まちに何らかの関わりを持ってきた歴史をふり返ると、「名古屋の港まち」は「みんなの港まち」だったという認識が浮かび上がってきます。

②失われていく港まちの原風景、はじまる港まちづくり

しかし、その後、船舶の大型化や港湾機能の高度化が進み、昭和43年には金城ふ頭のコンテナ岸壁が開設されました。その後、当地区の物流は著しく減少し、商業の停滞、人口流出が顕

著となり、それまでの活力は急速に失われていきました。

このように、産業構造の転換によって、港まちの労働者は姿を消していきました。それは、その人がつないでいた様々な人間関係が失われ、地域の絆がゆっくりと解体されていくことでもあったのです。

そのような状況の中、「市民に親しまれる港づくり」が当地区特有の課題として認識されるようになりました。そして、昭和55年に当地区は、「地区総合整備事業」に正式に位置づけられ、「築地地区総合整備事業」として、ウォーターフロント開発、公共施設整備、江川線整備、市街地再開発、密集地整備等のハード整備事業が順次行われました。これら一連の取り組みは、現在につながる本格的な港まちづくりの事はじめと位置づけられるでしょう。

③築地ポートタウン地区の協働の取り組み

上記のようなハードを中心とした再開発等をきっかけとし、西築地学区においては、地域住民を代表するまちづくり組織が、ハードの面だけでなくソフトの面からのまちづくり活動を活発に展開してきました。会議室で行う硬い話し合いが主流だった当時においては画期的ともいえる、楽しい雰囲気の中で人々の意見を集めていく独自のワークショップが盛んに行われました。このようにしてみると、「港まちづくり」には、行政の働きかけからスタートしながらも、住民主体のまちづくりとして展開し、ワークショップ等の新しい取り組みもいち早く取り入れられていたことがわかります。これらは、名古屋市の中でも先進的なまちづくり事例であり、当地区の重要な特色の1つといえます。

そして平成3年、こうした住民主体のまちづくりが盛んな西築地学区を対象に「築地ポートタウン計画」が策定されました。この計画は、当地区の将来像を明確にし、住民、企業、行政が共通の目標をもち、連携しながら港まちづくりを進めていくための指針として、名古屋市と名古屋港管理組合が共同で策定したものです。その間、ガーデンふ頭における名古屋水族館や名古屋港イタリア村の整備、土地利用転換の促進によるシートレ



人力が中心だった荷役作業も、時代が進むにつれて、道具の補助や機械化が進んでいった。



「名古屋港」という停留所。働く人々を港に運び、名古屋の繁華街へ遊びに行く人々を乗せた。

※「ポートタウン1号地街づくりの会」、「築地ポートタウン21まちづくりの会」、「夢塾21」等の活躍があった。



平成10年に夢塾21が開催した稲荷公園づくりワークショップ。

写真：名古屋港管理組合、港まちのみなさん

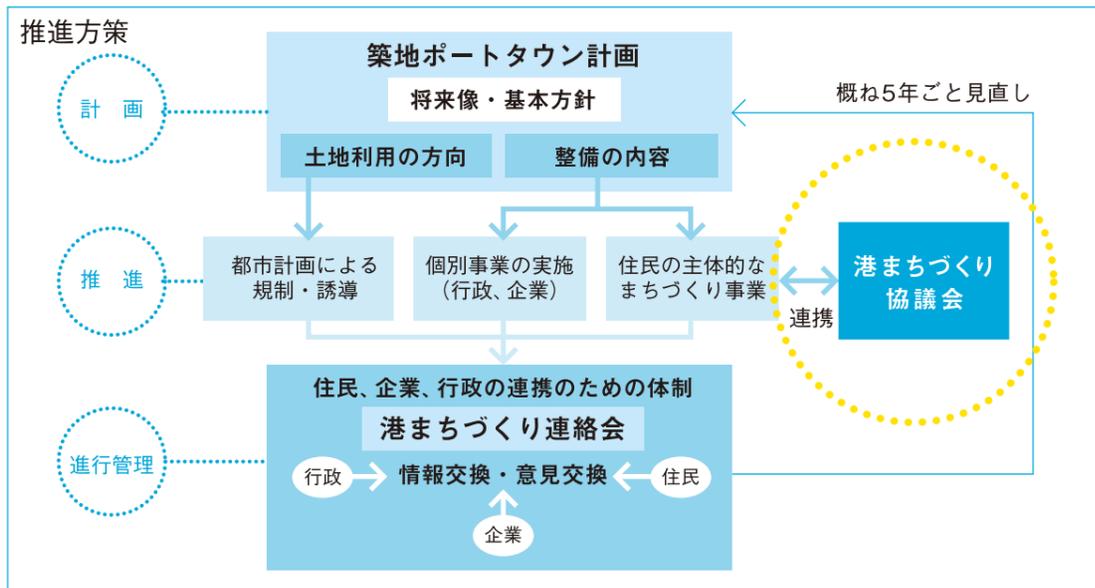


灯台の跡地には、名古屋港ポートビルが建設された。現在は、市民に親しまれるにぎやかな観光スポット。

インランド等の開設、江川線整備や住環境整備等の様々な取り組みが行われてきました。

「築地ポートタウン計画」は、目標年次を迎えた平成19年11月に、社会経済情勢の変化等を踏まえた改訂が行われ、その中には、港まちづくり協議会との連携も追記されています。また現在、新たな改訂に向けての取り組みもはじまっており、今後の展開が期待されます。

◎築地ポートタウン計画における港まちづくり協議会の位置づけ



※築地ポートタウン計画(平成19(2007)年11月)に掲載されている図を参考にしています。



事業計画作成部会は、ワークショップ形式で開催している。

④港まちづくり協議会の取り組み

港まちづくり協議会は、ポートピア名古屋の開設をきっかけに平成18年8月に発足しました。

港まちづくり協議会では、毎年6月～8月に開催している事業計画作成部会において、翌年度の事業内容を検討しています。事業計画作成部会には、協議会委員に加えて地域の中から公募した部会員も参加し、意見交換を行っています。この部会を経た事業計画に基づき、各種の事業を実施してきました。例えば平成24年度には右記のような事業が実施されました。

平成24年度に実施された協議会事業

1.港まちの魅力づくり・にぎわいづくり事業

- (1) 夏のイベント事業
 - ・遊びの創庫[アジト2012]
 - ・夏休み! 地蔵盆まつりだよ!! みんなで、踊るのだから~!
 - ・セラーズフェスティバル
- (2) 冬のイベント事業
 - ・み(ん)などイルミネート2012
- (3) 港まち紹介・情報発信事業
 - ・ぶらり港まち新聞3、4、5号



み(ん)などイルミネート2012では、「なごやのみ(ん)なとまち」を印字した光る風船を活用。

2.暮らしやすい地域づくり事業

- (1) 安心・安全のまちづくり事業
 - ・AEDの設置&マップの作成
 - ・企業防災の実態調査
- (2) 継続的まちづくり事業
 - ・み(ん)などヤレコノ講習会
 - ・遊びの広場 やんちゃ横町
 - ・わたしのまちの水族館
 - ・名古屋み(ん)などをどり
 - ・み(ん)などヤレコノ宵祭
 - ・まちの遊び場へ行こう!
 - ・健康体操教室NOSS
- (3) 提案公募によるまちづくり事業
 - ・クラリネット=サマーフェスタ
 - ・ゆっくり学ぶパソコン講座
 - ・港まち文化発見/落語会
 - ・打楽器de遊ぼう! 集まれ未来の音楽家!!
 - ・港まちワールドキッチン
 - ・み(ん)なとまちガーデンプロジェクト
 - ・み(ん)なとまちLIKE
- (4) 港まち文庫事業
- (5) 調査検討事業
 - ・ビジョン作成



みなと祭で踊る盆踊りの新曲「み(ん)などヤレコノ」を作り、みんなで練習。



毎回人気の子育てサロン事業。お母さんたちの口コミで参加者が増えている。

3.その他協議会の目的を達成するために必要な事業

- (1) 広報
- (2) 事務局運営

※「港まち活性化の方針」では、「港まちの魅力づくり・にぎわいづくりを目指す事業」と「暮らしやすい地域づくりを目指す事業」が示されていますが、協議会事業では、「を目指す」を割愛して表記しています。



江川線沿いの花壇をみんなで作るガーデンプロジェクト。生ゴミ堆肥づくりに挑戦中。

平成24年度に実施された名古屋市事業

- ・名古屋みなと祭の警備に関する補助金の増額
- ・市バス停留所の改築
- ・西築地小学校の環境教育施設の維持管理
- ・江川線花壇の充実
- ・江川線樹木の整備
- ・公園の整備
- ・道路環境の整備
- ・道路の補修
- ・港橋広場公園の噴水等の稼働



港橋広場公園の中央にある、細かなミストが出る噴水を整備。夏の暑さを和らげてくれると人気の噴水。

※地域の意向を取りまとめた名古屋市の事業を要望することで、主にハードを中心とした環境整備を充実させる「名古屋市事業」が実施されています。

I.4 新たな 「港まちづくり」への 視点

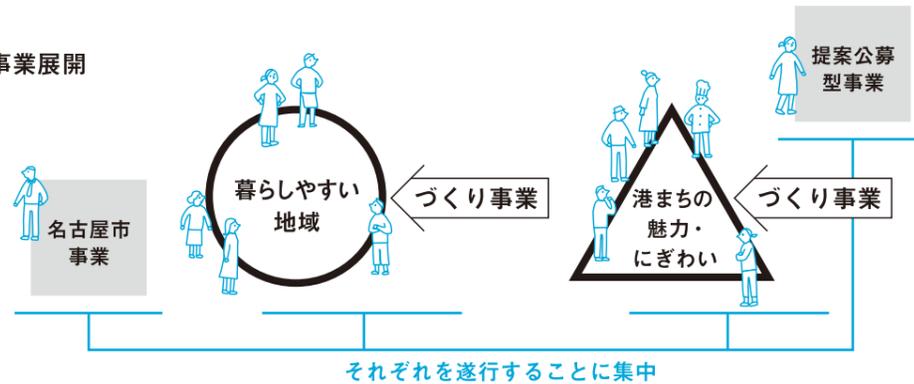
①成果を継承し、問題点を整理する

港まちづくり協議会が新しい段階の「港まちづくり」のビジョンを描き、より広がりのある発展的な展開に挑戦するためには、これまでの成果を継承しつつも問題点については整理を行う必要があります。以下では、その視点について説明していきます。

②これまでの展開とこれからの展開

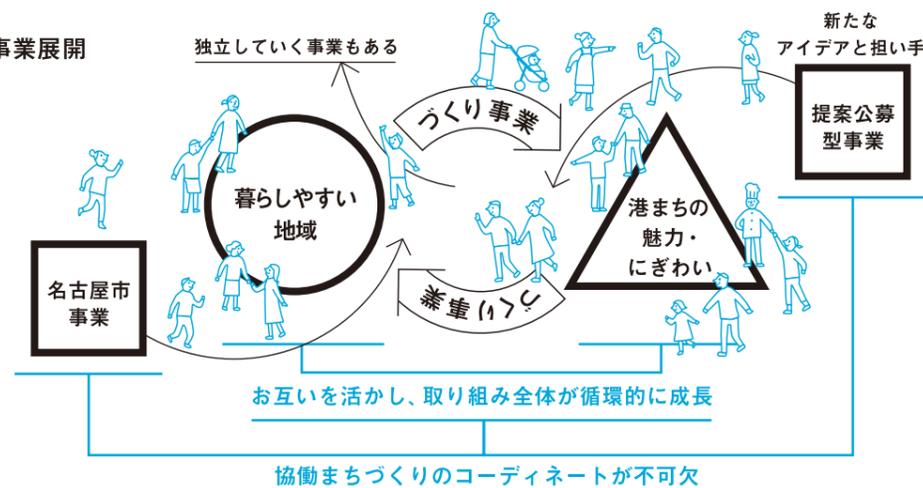
これまでの事業展開を可視化すると、以下の図のようになりますが、それぞれの事業は、単独の目的を遂行しています。

◎これまでの事業展開



これに対し、これからは以下の図のような事業展開を目指します。

◎これからの事業展開



③取り組み全体の循環的な成長

新たな段階の「港まちづくり」の事業展開が、より広がりのある発展的な展開を目指すためには、それぞれの事業がお互いの成果を活かしあい、取り組み全体が循環的に成長していくことが重要です。

暮らしやすい地域づくりを実践する人々が協力しあうことで、魅力的なにぎわいイベントをつくり出していく原動力が生まれます。また、そうして創出されたなにぎわいイベントに共感した人々を港まちの新たな活力として迎え入れていくことにより、新たな信頼のネットワークが構築されます。

④名古屋市事業との連携

もちろん、充実してきたハードをどのように活用していくのか、またこれからの「港まちづくり」の中で、どのような環境整備が必要なのかという点を考えていくことも重要です。そのためには「名古屋市事業」との連携についてもますます考慮していかなければなりません。

⑤提案公募型事業という仕掛け

また、これらに加えて、新たな段階の「港まちづくり」の中に、常に新しい風を呼び込む仕掛けを用意しておくことも重要です。どのような取り組みでも、固定化や形骸化には細心の注意を払っていく必要があるからです。そこで、これまでの、人材育成を目的に行ってきた提案公募型事業を、新たなアイデアと担い手の参入を促進する機会として明確に位置づけます。これによって、定番となっている既存事業にも程よい緊張感を保つことができます。

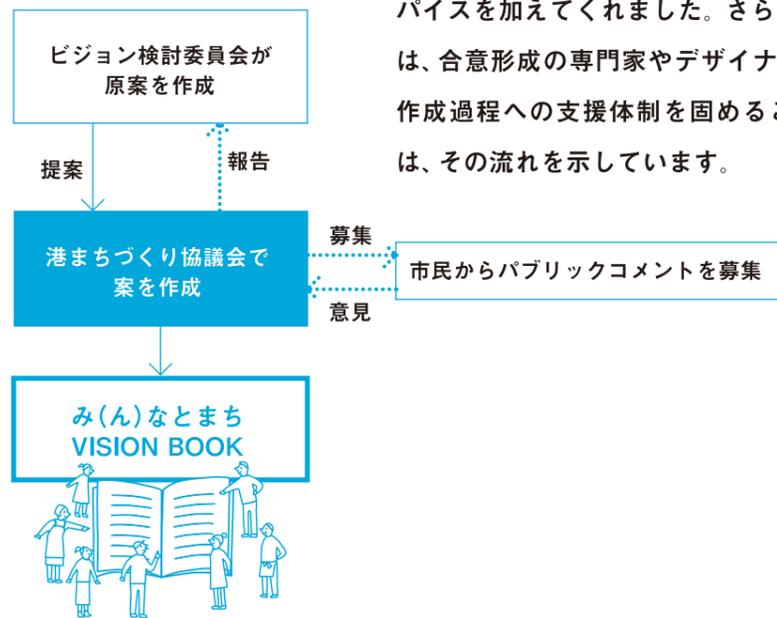
⑥協働まちづくりのコーディネート

上記③～⑤のような視点で、これからの事業展開を推進していくには、協働まちづくりのコーディネートが欠かせません。それは、港まちづくり協議会に期待されている大きな役割です。

I.5 ビジョン作成の流れ

平成23年度には、ビジョン作成に先駆けて、港まちづくり協議会がこれまでに実施してきた取り組みの全体をふり返り、各事業の協働の担い手や学識経験者等に聞き取りを行い、「中長期ビジョン作成に向けた事前調査報告書」をまとめました。この報告書をもとに学識経験者2名、まちづくりと観光の専門家各1名ずつの計4名を中心として設置したのが、ビジョン検討委員会です。「ビジョン原案」は、この委員会を中心にして取りまとめられ、それを基に港まちづくり協議会の運営会が協議会委員の意見を反映させ作成したのが、「ビジョン案」です。この案についてパブリックコメントを募集し、意見を反映させ、最終的に港まちづくり協議会での審議と承認を経て「み(ん)なとまちVISION BOOK」を発刊しました。

ビジョン検討委員会の運営は、公益財団法人名古屋まちづくり公社名古屋都市センターと協働することで、名古屋のまちづくりに関連する様々な情報を収集するとともに、各種行政機関との連携を図りながら、学識経験者と専門家と現場関係者がより対等な立場で有意義な議論を進めることができました。また、学識経験者の研究室に在籍する院生たちの参加も議論にスパイスを加えてくれました。さらにビジョン全体の作成過程には、合意形成の専門家やデザイナーが伴走することで、至難な作成過程への支援体制を固めることができました。左記の図は、その流れを示しています。



合意形成の専門家とデザイナーが作成過程全体を支援

II. なごやのみ(ん)なとまちの構想

み(ん)なとまちVISION



II.1 港まちの将来像

①新たな「港まちづくり」のコンセプト

新たな段階の「港まちづくり」が、より広がりのある発展的な展開を目指していくためには、その取り組み全体を包括するコンセプトが必要です。「港まちづくり協議会って、いったい何をしているの?」とか、「港まちづくり協議会って、どんなことを目指しているの?」と質問されたときに、一言で答えられて、かつ全ての事業の基盤となるアイデア、それが「なごやのみ(ん)なとまち」というコンセプトです。

◎コンセプト

『なごやのみ(ん)なとまち』

名古屋中のみんなと楽しめて、
全国の皆さまに誇れる
「みんなの港まち」を目指します。

このコンセプトは、港まちづくり協議会が実施してきた6年間のまちづくり事業の実践から誕生したもので、もう既にいくつかの事業の中では欠かせない存在となっています。今回のビジョン作成においては、このコンセプトの実現化が重要な鍵となります。

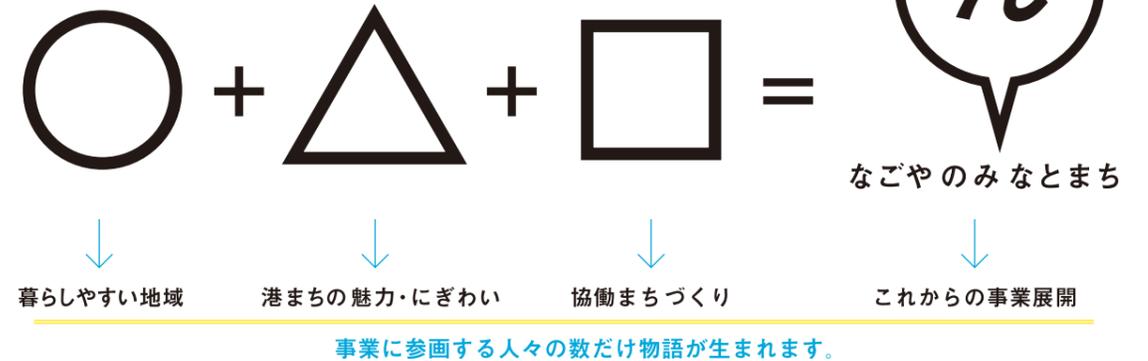
②「なごやのみ(ん)なとまち」を構想するための考え方

ここでは「なごやのみ(ん)なとまち」を構想するため、3つのテーマについて考えていきます。

「なごやのみ(ん)なとまち」は港まちづくり協議会が単独で実現できるものではなく、まちづくり事業に参画する人々と共につくりあげていくものです。つまり、それらのテーマの中身は、事業に参画する人々の数だけ存在し、それらの循環や協働によって、様々な物語が生まれていくのです。

ここで、前章(10ページ)で明記した「◎これからの事業展開」が目指すものを、このコンセプトとあわせて表現すると、下記のような「なごやのみ(ん)なとまち」をつくる方程式が示せます。以下では、多様な物語の広がりに期待しつつも、これまでの取り組みを踏まえ、「○△□」にあてはまる3つのテーマを提示していきます。

◎「なごやのみ(ん)なとまち」をつくる方程式



③3つのテーマ

以下の3つのテーマは、これまでの港まちづくり協議会の事業を踏まえ、ビジョン検討委員会の議論を経て考案されました。

○: 心地よく安心な港まちで暮らす

一人ひとりの関心を大切に、港まちの日常的な暮らしを心地よくしていくことで、みんなが安心できる港まちを目指します。

△: 魅力的でにぎやかな港まちに集う

港まちに集うみんなの力をあわせ、港まちならではの魅力を活かしたにぎわいづくりを目指します。

□: みんなと港まちを創る

コンセプトを軸にして、人々の共感と信頼を育みながら、みんなと一緒に取り組む協働まちづくりを目指します。

Ⅱ.2 3つのテーマに対する 9つのシナリオ

「心地よく安心な港まちで暮らす」、「魅力的でにぎやかな港まちに集う」、「みんなと港まちを創る」の3つのテーマに対し、9つのシナリオを設定します。今後はこのシナリオを踏まえて、1つひとつできる事から計画的に実行していきます。

○: 心地よく安心な港まちで

シナリオ① 防災・減災まちづくりの推進

シナリオ② コミュニティ活動の推進

シナリオ③ 住みやすいまちづくりの推進

△: 魅力的でにぎやかな港まちに

シナリオ④ 交流を通じたにぎわいの創出

シナリオ⑤ 港まちの回遊の促進

シナリオ⑥ ガーデンふ頭の集客力の向上

□: みんなと港まちを

シナリオ⑦ み(ん)なとまちを元気にする情報発信

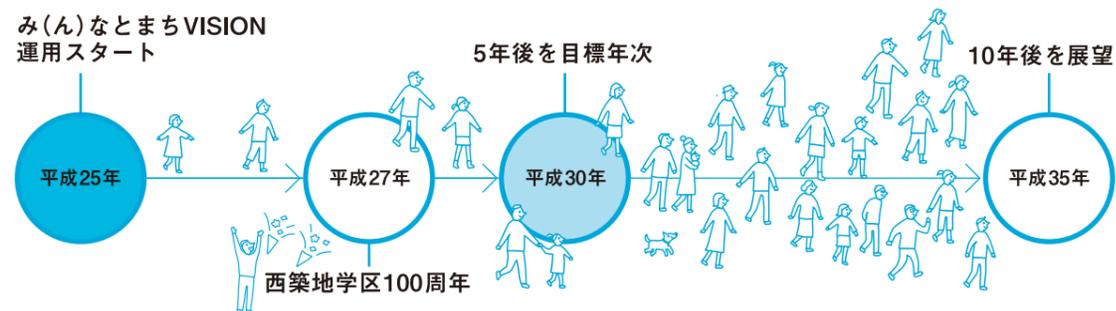
シナリオ⑧ み(ん)なとまちに呼び込む新たな風

シナリオ⑨ み(ん)なとまちの協働の促進



II.3 ビジョンが示す期間

この「み(ん)なとまちVISION BOOK」で示されている内容については、平成25(2013)年を初年度として、およそ10年を展望しつつ、5年後の平成30(2018)年を目標年次とします。平成27(2015)年には、西築地学区の100周年もやってきます。そうした機会を積極的に活用しながら、「なごやのみ(ん)なとまち」の実現を目指します。



COLUMN 地域資源を活かした観光への視点

港まちの地域資源を活かす

現在、地域の中の様々な資源を活かした観光まちづくりに大きな注目が集まっています。港まちにも、海や港、港湾にまつわる様々な施設や特殊な歴史、今も残る産業遺産等の地域資源が存在しています。加えて名古屋港水族館をはじめとしたガーデンふ頭エリア、それとは対症的な懐かしい下町の雰囲気を残す商店街、シンボルロードとしての江川線なども特徴的な地域資源といえるでしょう。これらの地域資源を活かすことが、観光まちづくりにおいての重要な視点です。

港まちの光りを楽しむ観光まちづくり

観光の語源には、「国の光を観る」、つまりその土地の発する光りに着目する、見直すというような意味があります。その意味からすれば、港まちの観光まちづくりは、その光りを見つめ直すことともいえるでしょう。ポイントは、港まちの光りに目を向け、その価値を再発見し伝えていくのは、人でありそのコミュニケーションだということです。港まちをみんなで楽しむ働きかけこそが大切なのです。

港まちを楽しむ人が増えれば自然と人が集ります。神戸や横浜とは違う名古屋の港まちの魅力は、そうした港まちを使って楽しむ人々による観光まちづくりというもの、素敵なシナリオの1つだと思います。

III. 9つのシナリオ



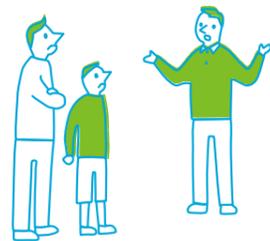


心地よく安心な港まちで暮らす

一人ひとりの関心を大切に、
港まちの日常的な暮らしを心地よくしていくことで、
みんなが安心できる港まちを目指します。

東日本大震災以降、防災・減災が日本中の多くの人々の関心事となり、海に面する港まちでは、津波や液状化といった特有の災害への関心も高まっています。このような社会的な関心事への対応とあわせて、港まちの日常を豊かにしていくコミュニティ活動と協働し、港まちを日常的にも活用したくなるような魅力的な空間にしていくことが大切です。コミュニティ活動に普段から多くの人々が関わることは非常事態への具体的な備えになります。そのため、課題視されるエリアこそ、多くの人々が常に関心を抱く魅力的な空間にしていく必要があります。港まちに関わる一人ひとりの関心を大切に、港まちの日常的な暮らしを心地よくしていくことで、みんなが安心できる港まちを目指します。

シナリオ① 防災・減災まちづくりの推進



シナリオ② コミュニティ活動の推進

シナリオ③ 住みやすいまちづくりの推進



心地よく安心な港まちで暮らす

シナリオ①

防災・減災まちづくりの推進

港まちには、住民だけでなく観光やビジネス等を目的とした多くの来訪者がありますが、災害時には、みんなで力をあわせる必要があります。近年では、災害が発生した際のことを想定し、被害の最小化を図る取り組みとして、減災まちづくりが注目されています。専門家や実際に被災地で活動されている方々にもアドバイスをいただき、災害に対する一人ひとりの心構えを育み、本当に役立つ防災・減災まちづくりを推進していきます。



みんなとまちでなにする？

- 例えば、「東日本大震災からの学び」をテーマに、被災地に関わった様々な立場の方々をゲストに迎えるトークイベント等を開催し、今後の取り組みに有効なアイデアを広く共有する機会を設けます。
- 住民・NPO・企業・行政等と連携し、事前に復興を準備するまちづくりや、減災まちづくりのモデルとなるようなプランを作成します。
- 防災・減災まちづくりに関する先進地区を目指し、関連する様々な情報の発信に努めます。また、この地域の昼間人口の多くを占める企業との連携も検討していきます。



魅力的でにぎやかな港まちに集う

港まちに集うみんなの力をあわせ、
港まちならではの魅力を活かした
にぎわいづくりを目指します。

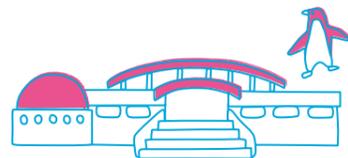
港まちが元気になる非日常的な催事を、みんなで一緒に創り上げていくことが重要です。これまでも、港まちはみなと祭をはじめとした地域の様々な催事をみんなで盛り上げてきました。そうした魅力的な風土を活かし、地域発の催事の中に、より多くの人々を呼び込んでいくようなにぎわいづくりを目指します。

名古屋港周辺には、観光やビジネス等を目的とした多くの来訪者がいますので、そうした人々との接点を数多く結ぶことが大切です。そもそも「名古屋の港まち」の原風景には、港まちならではの魅力とにぎわいがありました。港まちに集うみんなの力をあわせて、その魅力を活かしたにぎわいづくりを目指します。

シナリオ④ 交流を通じたにぎわいの創出



シナリオ⑤ 港まちの回遊の促進



シナリオ⑥ ガーデンふ頭の集客力の向上



魅力的でにぎやかな港まちに集う

シナリオ④

交流を通じたにぎわいの創出

日常的なコミュニティ活動を推進する港まちの皆さんと協働し、非日常的なにぎわいの創出を目指します。ここで創出されたにぎわいイベント等集まる人々との交流が、新たな仲間づくりへとつながっていきます。また、港まちの皆さんはもちろんのこと、各種の団体・NPO・事業者等との交流も促進していきます。関係者が力をあわせて、こうしたイベントの運営を担っていくことが、お互いに知り合う機会にもなるからです。このような交流を通して、地域に根づいた魅力的なにぎわいを創出していきます。



みんなとまちでなにする？

- △地元商店の皆さんとも連携し、青空市場、アートや音楽のイベント等を開催し、これまでとは異なる新規の来訪者の増加を目指します。
- △地元主体の地域イベントと連携し、港まちならではの魅力づくりに貢献します。
- △「み(ん)なとイルミナート」等の大規模イベントを充実させて、夜の港まちの魅力を高め、港まちのファンづくりを目指します。

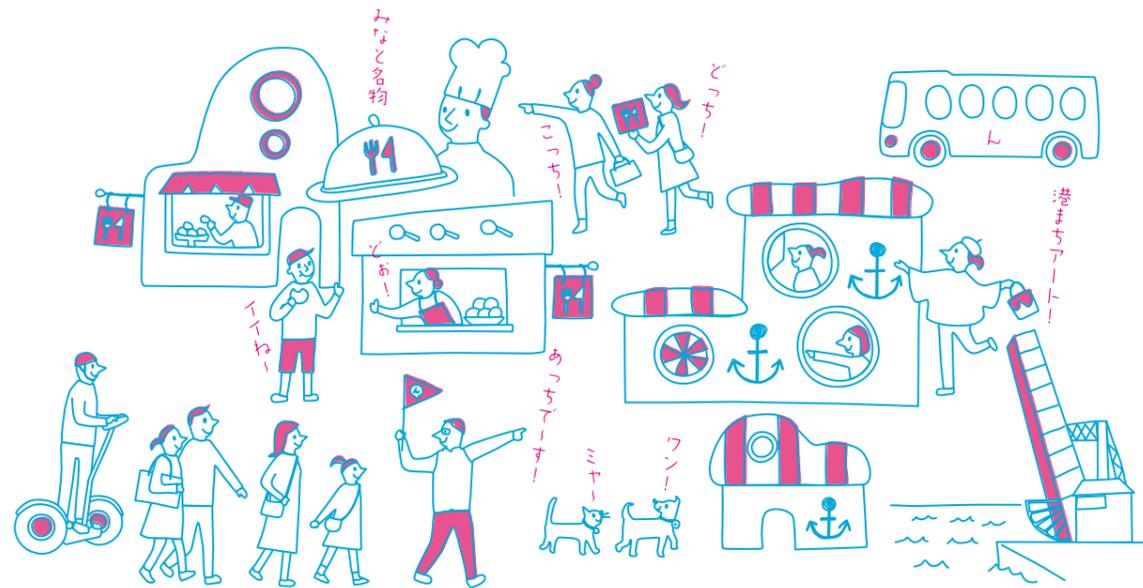


魅力的でにぎやかな港まちに集う

シナリオ⑤

港まちの回遊の促進

この地区には、海・空・風といった自然、港湾・産業にまつわる歴史遺産、都市計画によるデザインと下町の雰囲気が重なりあうまち並等々、魅力的な地域資源が数多く存在しています。名古屋港周辺を観光で訪れる人々にも、そうした港まちの魅力的な地域資源の存在を知っていただくことが大切です。より多くの人々が、港まち全体を楽しみながら回遊できるようにします。



みんなとまちでなにをする？

- △空き物件を活用した港まちアートイベント等を開催します。
- △港まちの名物を考案し、飲食店等と協力して食べ歩きを楽しむイベント等を開催します。
- △テーマに沿った散策路の整備や案内メディアを作成し、まち歩きイベント等を開催します。
- △行政と連携し電気バスやパーソナルモビリティの活用に関する社会実験を検討します。

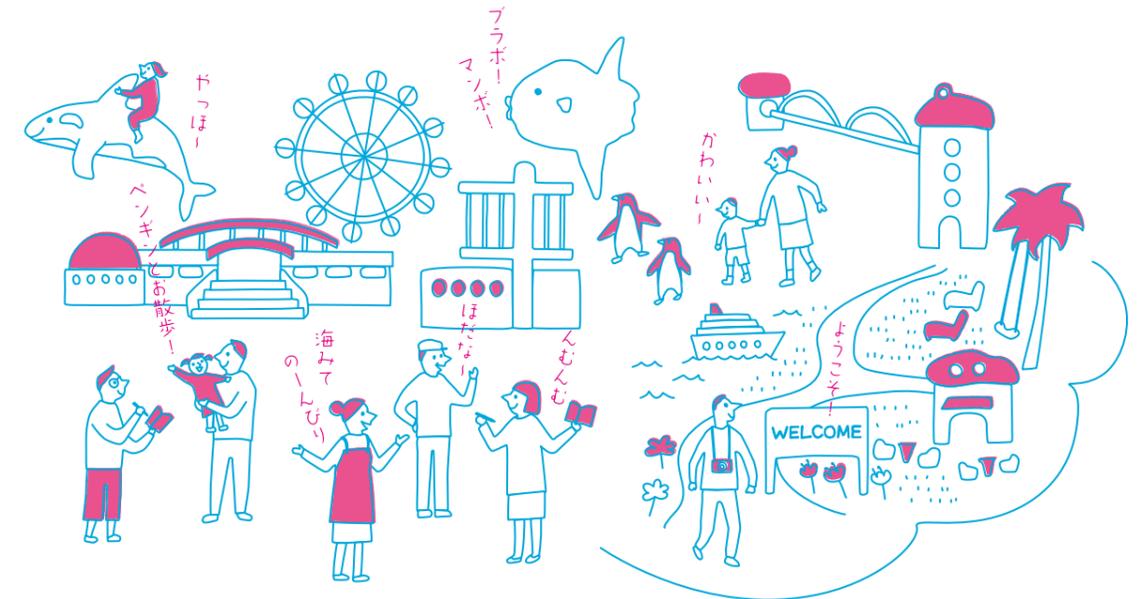


魅力的でにぎやかな港まちに集う

シナリオ⑥

ガーデンふ頭の集客力の向上

ガーデンふ頭には、名古屋港水族館をはじめとした魅力的な施設があり、近年では、クルーズ客船にも人気が集まっています。このエリアは、名古屋市の中でも一大観光地としての注目を集めており、現在の港まちのにぎわいづくりにおいて重要な役割を担っています。そこで、多くの市民や専門家等々の多様な意見を参考にして、よりいっそうの集客力の向上を目指し、支援策を検討していきます。



みんなとまちでなにをする？

- △ガーデンふ頭内の商業娯楽施設に対する市民の意見や希望を把握するための調査等を実施して、名古屋市、名古屋港管理組合と連携しながら、魅力的な施設づくりを支援します。
- △ガーデンふ頭の歩行者動線、広場空間、施設配置、船着き場等の心地よい空間づくりや使い方に関する提案コンペ等を実施し、ガーデンふ頭活性化の気運づくりを図ります。
- △クルーズ客船等の観光客の皆さんに対して、案内サイン(外国語表記を含む)の設置や港まちを巡るお楽しみ企画も検討します。

$$\bigcirc + \triangle + \square = \text{ん}$$

みんなと港まちを創る

シナリオ⑧

み(ん)なとまちに呼び込む新たな風

「なごやのみ(ん)なとまち」の活動に関わりたい！参加したい！というアイデアや企画をもった担い手の参入を促進し、新たな風を呼び込む機会として提案公募型事業を実施します。また、みんなと一緒にまちづくりを進めていくアイデアやその実践を、新たな「港まちづくり」の取り組みとして積極的に発信していきます。



みんなとまちでなにをする？

- 提案公募型事業を、港まちづくり協議会の取り組みの入り口として展開すると同時に、港まちづくり協議会そのものを広く周知するための広報の機会としても積極的に活用します。
- より多様な分野の方々からアイデアを募集すると同時に、その蓄積をみんなと一緒にまちづくりを進めていくアイデアとして発展させ、様々な地域の参考になる情報として発信していきます。

$$\bigcirc + \triangle + \square = \text{ん}$$

みんなと港まちを創る

シナリオ⑨

み(ん)なとまちの協働の促進

「み(ん)なとまちVISION BOOK」に描かれたテーマやシナリオを踏まえた、新たな「港まちづくり」を推進していくための協働を促進します。それらを通じて、楽しむ場づくりを展開し、全国に誇れる「みんなの港まち」の実現を目指します。



みんなとまちでなにをする？

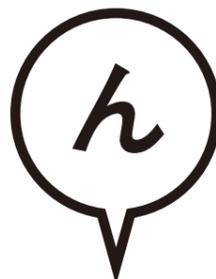
- 様々な担い手と協働をしながら、ビジョンに基づく新たな「港まちづくり」を促進し、その調整と進行管理を行います。また、地域の意向を取りまとめ、ビジョンとの整合性を図りながら、名古屋市に要望する事業を調整します。
- 港まちの皆さんや来訪者の声を集め、まちづくり事業に活かします。
- 港まちに関わるみんなが活用できる、まちの交流拠点の機能を持った事務所の整備を検討します。

おわりに

「みなとまち」に「ん」を加えて、「みんなとまち」。名古屋中のみんなと楽しめて、全国の皆さまに誇れるような「みんなの港まち」を目指す。それが、「なごやのみ(ん)なとまち」というコンセプト。このコンセプトを胸に今ここからイメージする未来への広がりを描いたのが、この「み(ん)なとまち VISION BOOK」でした。感想はいかがだったでしょうか？

このビジョンには、テーマもシナリオも示されています。そこから何を感じるかは人それぞれですが、みんなの想いを集め、カタチにすることで、彩りのある素敵な未来が広がっていく。私たちはそんなふうに考えています。今、あなたの中には何が浮かんでいますか？

「みんなの港まち」は、みんなと一緒に楽しくつくりたい。それが私たち港まちづくり協議会の願いです。今後は、このビジョンをふまえた計画を作成していきます。できることから1つひとつ実現していきます。これからもどうぞよろしくお願い致します。



なごやのみなとまち

平成25年3月

港まちづくり協議会・ビジョン検討委員会 一同

◎港まちづくり協議会メンバー ○印はビジョン検討委員会にも出席しているメンバー(平成25年3月現在)※敬称略

会長：高羽 章(西築地学区連絡協議会推薦)○

副会長：佐藤 良一(築地口商店街振興組合推薦)

日比野 茂(名古屋市港区役所区民生活部長)

委員：河村 満輝(西築地学区連絡協議会推薦)

田島 多津子(西築地学区連絡協議会推薦)

石田 辰三(西築地学区連絡協議会推薦)

松本 一男(西築地学区連絡協議会推薦)

牧ヶ野 英生(西築地学区連絡協議会推薦)

小林 史郎(名古屋市総務局総合調整部総合調整室長)

前田 行成(名古屋市市民経済局企画経理課主幹[企画・外郭団体])○

鈴木 英文(名古屋市住宅都市局まちづくり企画部臨海開発推進課長)○

鈴木 祥夫(名古屋市緑政土木局港土木事務所長)

事務局：細野 雄三(名古屋市港区役所企画経理室長・港まちづくり協議会事務局長)○

古橋 敬一(港まちづくり協議会事務局次長)○

堀田 麻衣子(港まちづくり協議会事務局員)○

春名 美紀(港まちづくり協議会事務局員)○

前田 篤志(港まちづくり協議会事務局員)○

森 建輔(港まちづくり協議会事務局員)

○ビジョン検討委員会構成メンバー※役割別で50音順、敬称略

委員：小宅 一夫(公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー事業部長)

加藤 慎康(NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク理事長・学長)

村山 顕人(名古屋大学大学院准教授)

吉村 輝彦(日本福祉大学准教授)

事務局：鎌田 敏志(名古屋都市センター研究主査)

鬼頭 豊(名古屋都市センター調査課長)

齊藤葉子(港まちづくり協議会事務局員)

羽根田 英樹(名古屋都市センター上席調査研究統括監)

オブザーバー：恵谷 公亮(名古屋市市民経済局企画経理課主事)

辻 正時(名古屋市港区役所まちづくり推進室主査)

則竹 和弘(名古屋港管理組合建設部総合開発室再開発担当課長)

制作：港まちづくり協議会

デザイン：高橋 佳介(株式会社クーグート)

イラストレーション：森田 和美(株式会社クーグート)

ファシリテーション：水谷 香織・東 善朗(パブリック・ハーツ株式会社)

原稿協力：谷 亜由子

印刷・製本：株式会社大宝印刷